



厚生文教委員会視察報告

令和7年1月31日

泉大津市議会議長 様

出張者氏名	丸谷正八郎	委員長
	岡本 笑明	副委員長
	井上 信久	委員
	西條 徹	委員
	野田 悦子	委員
	丸山 直土	委員
	村田 雅利	委員
	森下 巖	委員
行政参加者	吉野 久絵	保険福祉部参事兼高齢介護課長
	大塚 和弘	教育委員会事務局教育部教育政策課長
随行	北野 優子	議会事務局議事調査係主査

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和7年1月20日（月）～1月21日（火）
- 2 出張先 福岡県みやま市、大野城市
- 3 目 的 ・福岡県みやま市「地域学校協働活動について」
・福岡県大野城市「大野城市における地域ぐるみの支え合いについて」
- 4 報告事項 別紙のとおり

厚生文教委員会視察報告書

令和 7 年 1 月 23 日

泉大津市議会議長 殿

厚生文教委員会委員長 丸谷 正八郎

泉大津市議会厚生文教委員会行政視察について下記により出張致しましたので、その概要について報告いたします。

記

1、日 時 令和 7 年 1 月 20 日(月) ～ 21 日(火)

2、出張先 20 日(月) 福岡県「みやま市」

21 日(火) 福岡県「大野城市」

3、目的 ① みやま市

「地域学校協働活動について」

② 大野城市

「大野城市における地域ぐるみの支え合いについて」

4、報告事項

第 1 日目 1 月 20 日 (月)

みやま市役所（山川支所）「地域学校協働活動について」

1, みやま市の概要

みやま市は、福岡県南部にあり、人口約 3.4 万人、面積約 105.1 k m²
瀬高町・山川町・高田町の 3 町が合併して 2007 年 1 月に発足致しました。

2, みやま市ならではの「仕組みと仕掛け」等について

① 仕組みについて

地域学校協働本部長（教育部長）を設置し、指導室（指導室長）CSディレクター指導主事 1 名（CS推進）と社会教育課（社会教育課長・地域学校協働推進担当係長）本部コーディネーター3 名（内総括 1 名）（学校支援）（地域支援）（家庭支援）の連携・協働により事業運営等を行っている。

② 仕掛けについて

- ・「地域学校協働活動推進計画」の作成
- ・地域と学校と行政の三者会の定例化
- ・社会教育課と指導課の合同研修会の開催

③ 地域学校協働活動について

- ・学校を核とした地域づくり（地域と学校が連携・協働）
- ・地域学校協働活動の 3 つの柱（学校支援・地域支援・家庭支援）
- ・学校と地域の連携による成果について
（学校）GT 支援によって、学習内容の質的向上及び新たな教材開発に繋がった。
担任の負担軽減になった。（ミシンボランティア活動など）
（地域）子ども達とふれあい生きがいを感じることで地域の活性化に繋がった。

④ 地域貢献活動について

- ・地域の課題解決に向けた活動
学校運営協議会への児童の参加（児童の提案で地域の清掃活動を実施した）
- ・地域行事への小学生や中学生の参加（地域からの参加協力の依頼に応じる）
地域の運動会や夏祭りの準備及び運営などの協力依頼があった。
- ・子どもが中心となり学校と地域が繋がる。（それぞれにメリットが生まれる）
（学校のメリット）地域活動への参画意識の向上・自己有用感の高まり・学びや体験が充実・コミュニケーション能力や表現力アップなどがある。
（地域のメリット）学校の応援団としての意識の高まり・学校を核としたネットワークの構築・学校運営協議会に参画する意識の醸成などがある。

<所見>

みやま市の学校と地域連携のイメージ図を電動自転車に例えて聞かせて頂きました。
学校と地域は前・後の両輪である、ハンドルは校長が握り・ペダルは校区コーディネー

ターが踏む、バッテリーは行政の務めである。

それぞれの役割を認識して「学校を核とした地域づくり」をめざしている。

再任用された市立小・中学校の校長および教頭退職者が地域学校協働推進担当係に所属し本部コーディネーターとして学校と地域のパイプ役を務めている。

学校関係者と地域関係者だけでは、それぞれの認識の違いがあり、コミュニケーションが上手く取れないことが多々あるので、本部コーディネーターとして校長及び教頭経験者が間に入ることでスムーズに協議ができると感じました。

本市のコミュニティスクールの運営についても学校と地域の協働活動が今後の課題となってきます。子どもたちが積極的に地域に出て地域人々と一緒になって地域行事に参加できるような取り組みができれば良いと思います。

第 2 日目 1 月 21 日 (火)

大野城市役所、「大野城市における地域ぐるみの支え合いについて」

4、報告事項

1, 大野城市の概要

面積 26.89 km² 人口 103,325 人(令和 6 年 10 月 1 日現在)

九州高速道路ICやJR・私鉄の駅があり、福岡空港に近接している福岡市のベッドタウンである。大野城市は昭和 47 年に市制施行した。(令和 4 年に市制 50 周年を迎えた)

2, 大野城市の高齢者施策について

- ・配食サービス事業 ・介護用品（紙おむつ）給付サービス事業
- ・在宅ねたきり高齢者等介護手当 ・緊急まどかコール事業
- ・高齢者等不燃ごみ等戸別収集事業
- ・あんしんまどか（高齢者 ICT 見守り）事業
- ・ここだよまどか（高齢者等搜索位置探索）事業
- ・みつけてまどか（高齢者搜索身元確認）事業

3, ICT を活用した高齢者の見守り事業について

高齢者が安心して住みなれたまちで生活できる環境を整えるため、ICT を活用し認知症高齢者や独居高齢者等の事故等を未然に防ぎ、緊急時の不安や負担を軽減する取組みを令和 5 年 7 月より開始した。

① ここだよまどか

GPS 貸与による認知症高齢者の行方不明時の早期発見と早期保護。

GPS 機器を小型化し専用シューズのかかと部分に収容できるようにした。

家族等がいつでも探索可能である。対象者は認知症高齢者です。

② みつけてまどか

QR コード付きシールを用いた認知症高齢者の行方不明時の早期保護や家族への連絡。

発見者と家族等が直接やりとりができるため、閉庁時間に関係なく活用可能。対象者は認知症高齢者です。

③ あんしんまどか

人感センサー緊急通報機器を用いた独居高齢者等の孤独死防止と不安の解消。人感センサーと緊急通報機器を組み合わせた見守りである。

対象者は、独居高齢者や高齢者のみの世帯及び家族の仕事等で昼間独居状態になる世帯である。

4、高齢者の移動・外出支援・生活支援について

① コミュニティ・区による移動支援（高齢者移動支援事業）

「ふれあい号」（南コミュニティ）・「おげんき号」（東コミュニティ）

「なかよし号」（中区）合計 3 台のバスを運営している。

買い物や通院など日常生活における移動が困難な 65 歳以上の高齢者が対象である。料金は無料である。

② 介護予防事業「訪問型サービス D」について

要介護者等を対象に介護予防ケアマネジメントに基づき実施している。

社会福祉法人等と協定を締結して「ドアツードア」で実施している。

④ 生活支援「おタスケさん」使ってバンク暮らしのサポート事業

日常生活の中のちょっとした困りごとについて「おタスケさん（ボランティア）」が解決のお手伝いをする地域の支え合い事業である。

⑤ 生活支援について

- ・ 買い物代行、ごきげんお届け便、「大野城市・イオン大野城店・パートナーシップ活動支援センター」による共働事業である。

- ・ 高齢者買い物支援

- ・ 「ふれあい市場」など南コミュニティ地区高齢者買い物支援

- ・ 「暮らしのもやい帳」の作成

<所見>

今回は、大野城市が令和 5 年度から新たに取り組んだ ICT を活用した高齢者の見守り事業について教えて頂きました。特に認知症高齢者に対する支援として ICT の活用は重要であると感じました。GPS 貸与・QR コードシール・人感センサーなどの取組みは勉強になりました。また、高齢者の移動・外出支援・生活支援についてもきめ細やかな取組みとなっていました。民間委託によるドアツードアなど本市でも取り入れできればと思いました。

厚生文教委員会視察報告書

令和 7 年 1 月 23 日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 岡本 笑明

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和 7 年 1 月 20 日（月）～1 月 21 日（火）
- 2 出張先 福岡県みやま市、大野城市
- 3 視察内容 みやま市【1 日目】
 - ・地域学校協働活動について
大野城市【2 日目】
 - ・大野城市における地域ぐるみの支え合いについて

◆1 日目【地域学校協働活動について】

① 視察目的

みやま市では、「学校を核とした地域づくり」を推進しており、地域住民と学校の連携を通じた活性化や、地域の課題解決に向けた取り組みが進められています。

今回の視察では、これらの取り組みの現状と成果、課題を伺い、本市での展開の可能性を検討することを目的としました。

② 視察内容

1. みやま市の概要

福岡県南部にあり、山門郡瀬高町と山川町と三池郡高田町の3町が合併し2007年1月に発足した市。面積は105.21k m²、人口：33,520人（2024年12月1日現在）セロリの農業を基盤とし、ミカンの生産も盛んな市。

2. 教育方針

「地域とともに歩む教育」を掲げ、地域連携を強化し学校を核とした地域づくりのみやま市ならではの仕組みと仕掛けに取り組まれています。

仕掛け① 「地域学校協働活動推進計画の作成」

地域住民と学校が連携し、教育活動や地域イベントを共催したり、学校施設（体育館、図書館など）の地域開放、また地域人財（高齢者や専門家）の教育活動への参加が年間を通して学校でのスケジュールにしっかりと組み込まれていました。

仕掛け② 「地学協三者会の定例化」

地域と学校と本部（本部コーディネーター）の三者が手を組んで、情報交換の場を定期的で開催されています。

実際に実演で三者会の様子や方法を見せていただき、とてもわかりやすく説明していただきました。

この三者会のメリットとしては、

- ・地域資源（ひと・もの・こと）に関する情報が得られること。
⇒学びの質が高まる
- ・GT（ゲストティーチャー）との連絡調整をしてもらえること。
⇒働き方改革につながる
- ・子ども達の地域の様子を情報交換できる。
⇒学校では見せないよさの発見

というメリットをお話していただきました。

仕掛け③ 「研修会の開催」

地域学校協働本部研修会を年３回開催し、社会教育課と指導室の連携を取りながら共通理解を得るための取組をされています。

3. 成果

学校と地域住民の連携強化により地域コミュニティが活性化し、生徒の地域理解が深まり、地元への愛着が向上している。

また地域人財の活用により教育の多様性が向上している。

4. 課題

持続的な地域人財の確保、教職員や地域住民の負担の増加、若年層の地域外流出などの他の自治体が抱える課題も視野に入れながらも、これからもみやま市ならではの仕掛けを推進していく。

5. 感想

みやま市の取組の中で、本市への展開可能性も確認できましたが、みやま市の取り組みは、地域特有の資源を活かしている点が特徴的であり、本市でも本市ならではの特性に応じた柔軟なプログラムにアレンジして応用可能だと感じます。

特に印象に残ったのは、「人材」を「人財」と全て明記されて説明をされているところで、みやま市民ひとりひとりを大切な財産として考えられている意識に感動しました。本市の視察に至るまでに相当の時間をかけて準備をしてくださったことがとても伝わる素晴らしい視察でした。

●2日目【大野城市における地域ぐるみの支え合いについて】

1. 視察目的

少子高齢化が進む中、大野城市では地域全体で住民を支え合う取り組みを展開しています。また、若者の流入が増加しています。

今回の視察では、その具体的な活動内容、成果、課題を把握し、本市での応用の可能性を検討することを目的としました。

2. 大野城市の概要

大野城市の概要は面積 26.89K m²、人口 103,325 人（2024 年 10 月 1 日現在）特徴は、九州高速道路 IC、JR・私鉄の駅、福岡空港に近接している福岡市のベッドタウンで、立地は本市に似ています。令和 4 年に市制 50 周年を迎えた市。65 歳以上の人口は 23,225 人で高齢化率は 22.48%と福岡県内で低い順から 4 位。ただし年々高齢化が増加傾向とのこと。

3. 視察内容「地域ぐるみの支え合いの取り組み」

最大の特徴は「ICT を活用した高齢者の見守り事業」

- ① ここだよまどか（高齢者等捜索位置検索事業）
- ② みつけてまどか（高齢者捜索身元確認事業）
- ③ あんしんまどか（高齢者 ICT 見守り事業）

この3つの取組をされています。

① ここだよまどか

GPS機器をお守り袋に収納できるほどに小型化して高齢者がいつでも持ち歩けるようにしたり、かかと部分に収納できる専用シューズ（9,680 円の50%を補助）を推奨しています。

② みつけてまどか

QR コード付きシールを用いた認知症高齢者の行方不明時の早期保護
家族への連絡をいち早くできるように地域住民や商店、公共施設などと連携し、高齢者の安否確認を実施

③ あんしんまどか

人感センサー及び緊急通報機器を用いた独居高齢者等の孤独死防止・不安解消を推進。

4. 成果

認知症高齢者の行方不明者をゼロにすることを目的とし、様々な取組みの成果として、地域のつながりの再構築ができています。

また見守り活動や交流イベントを通じて、住民同士の関係が深まったり、住民の安心感向上、高齢者の生活支援や子育て環境の整備による、生活満足度

の向上。

4. 課題

他の自治体が抱える課題と同じく、活動の担い手不足や若年層の地域参加が低くなり、支え合い活動の担い手が不足しないようにすることが今後の課題。

5. 感想

高齢化が進む中、大野城市は若者の流入が多いことの理由の大きな要因は立地にあるとのこと。空港からも近く、福岡市に出るのも便利な市。

そのことを考えると本市も立地的には同じような条件があり、若者流入に希望が持てる視察でした。

また、高齢者がいつまでも自分らしく豊かに過ごせるための取組みは本市でも取り入れられるとても貴重なヒントをいただく視察でした。

ただし、本市ならではの特性に応じたカスタマイズが必要です。

大野城市における地域ぐるみの支え合いの取組みは、少子高齢化が進む地域社会における課題解決の重要なモデルケースとなり得る中で、

持続し続けるための更なる努力と工夫と地域と行政の支援が求められると感じました。

厚生文教委員会視察報告書

令和7年1月31日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 井上 信久

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 日 時 | 令和7年1月20日（月）～1月21日（火） |
| 2 | 出張先 | 福岡県みやま市、福岡県大野城市 |
| 3 | 内 容 | 1. 福岡県みやま市：地域学校協働活動について
2. 福岡県大野城市：大野城市における地域ぐるみの支え合いについて |
| 4 | 所 見 | 次頁参照 |

4 所 見

<視察1日目>福岡県みやま市：令和7年1月20日（月）

14：00～15：30 地域学校協働活動について

学校を核とした地域づくりをめざして

～学校と地域の連携による地域学校協働活動～

1. みやま市における「地域学校協働活動」について

「地域学校協働活動」は地域学校協働本部を中心に展開している。

（1）目的：子供達の学びや成長のために、学校を核とした地域づくりを目指し、学校と地域が連携・協働しながら活動することにより、地域への親しみや愛着を育てる。

（2）みやま市ならではの「仕組み」と「仕掛け」

○地域学校協働本部：

みやま市教育委員会社会教育課社会教育係内に設置している。

- ・地域学校協働推進担係長を配置
- ・本部コーディネーターを配置

（地域学校協働活動推進員のこと）

- ・CSディレクター（指導主事）は、本部コーディネーターを兼務

*CS推進は指導室で担い、それ以外は、地学協が担う

体制図

1. 「みやま市地域学校協働本部」

→本部長（教育部長）

1) 「教育委員会指導室」

→指導室長 1 名

→CS 担当：指導主事 1 名

役割：CS 推進

2) 「社会教育課」

- 社会教育課長 1 名
- 担当係長 1 名
- 本部コーディネーター 3 名
- 生涯学習専門員 1 名
- 地域活動指導員 2 名
- 役割：学校支援
- 役割：地域支援
- 役割：家庭支援

○「地域学校協働活動推進計画」の作成

- ・各学校ごとに、主幹教諭が作成
- ＊GT 支援終了後に、付加修正を実施
(GT：ゲストティーチャー)

○地域学校協働活動三者会の開催

- 地域：校区コーディネーター
- 学校：地域連携担当者（主幹教諭等）
- 本部：本部コーディネーター
- ・月 1 回程度：定例化、学校で開催
- ・学習支援ボランティアの派遣依頼等
- ・学校と地域の情報交換
- ＊地学協三者会のレジュメの準備をする
(＊地学協三者会：地：地域、学：学校、協：本部)

○研修会の開催

- ・社会教育課：本部研修会
- 対象者は研修内容に応じて（校区コーディネーター、公民館職員、学習支援ボランティア等）

- ・指導室：校長研修会、教職員研修会で、学校運営協議会の充実について

2. 地域と学校の連携・協働による「地域学校協働活動」の取組の実際

(1) みやま市における「地域学校協働活動」の3つの柱について

①学校支援について・・・学習支援等

「地域学習」の目的：地域の方と一緒に散策しながら、地域のよさを知り、地域への愛着をもつ。

→地域のよさ（歴史や価値、地域の想い等）の再発見、地域の方とのかかわり

主な活動：

学習補助（ミシン体験、習字、読み聞かせ）

G Tによる支援（地域の歴史、祭りの説明、職業体験）

サマースクール

②地域支援について・・・体験活動等

「夏休み宿題お助け隊」の目的：夏休みの宿題に自ら取り組みながら地域の方とのふれあいを図る

→子供達が公民館に集うことによる地域の活性化

主な活動：

遊び体験（公民館事業、子ども広場）

生活体験（通学合宿事業）※学校に泊まる

夏休み宿題お助け隊

芸術文化体験（スプリングコンサート）

③家庭支援について・・・放課後学習教室等

「子ども未来塾」の目的：学習習慣の定着、地域の方とのふれあいを図る。

→子供とのふれあいを通して、生きがいや楽しさ、役立つことを実感
主な活動：

子ども未来塾（学習習慣の定着：小4、中3 週1回放課後）

ワクワク体験 親子教室（習字教室、軽スポーツ、お天気教室）

（２）事業の成果と課題

「学校側」

- ・地域と連携することにより、学習支援ボランティアの協力が得られ、学習内容の質的向上及び新たな教材開発につながった。

「児童生徒」

- ・地域の方から直接説明を聞くことで地域のよさを再発見したり、地域の方とのかかわりを通して地域の温かさに気づいたりできた。

「地域の方」

- ・地域の教育資源（ひと・もの・こと）の情報を学校に提供することによって、地域学習への参画ができ、地域の活性化を図ることができた。
- ・学習支援ボランティア等には、子供達とふれあう楽しさや生きがいを感じられ、地域の方の自己肯定感等が高まった。

【視察して感じた事】

みやま市では、人口減少が進んでおり学校の統廃合が進められている。そういった中で、令和2年から地域と学校の連携、協働が活発に行われている。みやま市における「地域学校協働活動」の3つの柱のうちの「学校支援」においては、学習補助のミシン体験では、地元でミシンができるボランティアさんにお手伝いしてもらい、「地域支援」においては、「夏休み宿題お助け隊」で夏休みの宿題に自ら取り組みながら地域の方とのふれあいをはかり、「家庭支援」においては、「子ども未来塾」で学習習慣の定着をはかる等の様々な取り組みが年間を通して実施されている。

現在、泉大津市でもコミュニティスクールが実施されているので、地域との連携が行えることもあるので、今回学んだことを、地域からできることを進めて行きたい。

<視察2日目>福岡県大野城市：令和7年1月21日（火）

10：00～11：30

大野城市における地域ぐるみの支え合いについて

「ICTを活用した高齢者の見守り事業」

高齢者が安心して住みなれたまちで生活できる環境を整えるため、ICTを活用し、認知症高齢者や独居高齢者等の事故等を未然に防ぎ、緊急時の不安や負担を軽減する取組みを令和5年7月より開始。

1. ここだよまどか（高齢者等搜索位置検索事業）

事業概要：

GPS貸与による認知症高齢者の行方不明時の早期発見・早期保護

特徴：

GPSの小型化

かかと部分にGPSを収納できる専用シューズ

家族等がいつでも検索可能

収納用のお守り袋を無料で配布

介護者がいつでもアプリを利用し検索可能

専用シューズは半額自己負担（半額補助）

対象者

認知症高齢者

登録者：64人

2. みつけてまどか（高齢者等搜索身元確認事業）

事業概要：

QRコード付きシールを用いた認知症高齢者の行方不明時の早期保護・家族への連絡

特徴：

発見者と家族等が直接やりとりをできるため、閉庁時間も活用可能

衣服に貼付できる耐洗ラベルと暗闇で光る蓄光シールのセット

対象者

認知症高齢者

3. あんしんまどか（高齢者 I C T 見守り事業）

事業概要：

人感センサー及び緊急通報機器を用いた独居高齢者等の孤独死防止・不安解消

特徴：

人感センサーと緊急通報機器を組み合わせた見守り

緊急通報機器は屋内外での利用が可能

毎月の「おげんきコール」による状況確認

警備会社によるかけつけ

対象者

独居高齢者・高齢者のみの世帯・家族の仕事等で昼間独居状態になる世帯

申請者：6 2 6 人

4. 緊急まどかコール事業

事業概要：

緊急通報装置を用いた独居高齢者の緊急コールを24時間体制で受付し、ヘルパー・看護師によりかけつけを行う

特徴：

緊急通報装置の貸与

24時間体制のコールセンター

ヘルパー・看護師によりかけつけ

対象者

65歳以上の独居高齢者

心臓疾患、脳血管疾患、発作性疾患の既往症や転倒リスクの高い人

利用者：65人（令和6年）

【視察して感じた事】

大野城市では、ＩＣＴを活用し高齢者を見守る事業を実施している。

ＧＰＳ機器を利用し高齢者を探索する「ここだよまどか事業」。ＱＲコードを読み込むことにより高齢者を保護する「みつけてまどか事業」。人感センサーや緊急通報機器を用い独居高齢者の孤独死を防止する「あんしんまどか事業」。緊急通報装置を用い独居高齢者の緊急コールを２４時間体制で受付し、ヘルパー・看護師によりかけつけを行う「緊急まどかコール事業」。

お話を聴いた中では泉大津市でも同様の事業があれば、利用する人がいると思われるので、できることから順次事業化したい。

以上。

厚生文教委員会視察報告書

令和 7 年 1 月 3 1 日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 西條 徹

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

1. 日 時 令和 7 年 1 月 20 日（月）～ 1 月 21 日（火）
2. 出張先 みやま市、大野城市
3. 目 的 みやま市
地域学校協働活動について
大野城市
大野城市における地域ぐるみの支え合いについて
4. 報告事項 別紙添付

報告事項

みやま市の地域学校協働活動に関する報告書

みやま市は、人口減少が進む中、学校と地域が連携し、子どもたちの成長を支援する様々な取り組みを積極的に展開している。

みやま市の概要と地域学校連携の必要性

みやま市は、福岡県南部に位置し、人口約 3 万 5 千人の町である。少子高齢化が進み、小学校 7 校、中学校 4 校と学校の統合が進んでいる。しかし、多くの公民館が活発に活動しており、豊かな自然と伝統芸能を持つ地域である。このような状況の中、みやま市では、学校と地域が連携し、子どもたちの教育環境を充実させる必要性が高まっている。

みやま市の地域学校連携の仕組み

みやま市では、学校運営協議会と地域学校協働活動を車の両輪として捉え、地域と学校が連携協働できるような推進体制を構築している。具体的には、学校運営協議会が学校運営の方向性を示し、地域学校協働活動が地域住民の力を活用して様々な活動を推進する。この体制を支えるために、市教育委員会内に地域学校協働本部が設置されている。本部には、地域学校協働推進に特化した行政職員と、元管理職経験のある 3 名の本部コーディネーターが配置されている。また、CS ディレクターが本部コーディネーターを兼務し、学校と地域、行政との連携を強化している。

地域学校協働活動推進計画と三者会

みやま市では、地域学校協働活動を計画的に推進するため、地域学校協働活動推進計画を策定している。この計画には、各学校の学習支援計画や地域学習の内容、学校行事への協力などが盛り込まれており、全職員が共有している。また、定期的に三者会（学校担当者、地域学校コーディネーター、本部コーディネーター）を開催し、情報交換や支援依頼を行っている。三者会は、2 ヶ月先の学習支援について話し合うため、余裕を持った計画的な活動が可能となっている。

地域学校協働活動の具体的な取り組み

みやま市の地域学校協働活動は、学校支援、地域支援、家庭支援の3つの柱を中心に展開されている。

学校支援、学習支援（GT派遣など）、地域学習（地域散策、伝統文化体験など）、学校行事への協力、地域支援、公民館事業への協力（夏休み宿題お助け隊など）、家庭支援、放課後学習教室（小中学校で週1回実施）など、これらの活動を通じて、学校は地域資源を活用した質の高い教育を提供し、地域は生きがいづくりや活性化につなげている。また、子どもたちは学力向上や地域への愛着、社会性を育んでいる。

地域学校連携による成果と今後の展望

みやま市の地域学校連携は、学校、地域、子供たちのそれぞれに成果をもたらしている。学校は、地域支援によって学習内容の質的向上や新たな教育開発につながり、教員の負担軽減にもつながっている。地域は、学校を応援することで生きがいを感じ、地域の活性化につながっている。子供たちは、学習内容の充実や地域とのつながりを深めることで、豊かな成長を遂げている。今後は、子供たちによる地域貢献活動への参画を推進し、学校と地域が一体となった教育を目指している。具体的には、子供たちが地域の課題を解決するために主体的に活動できるような仕組みを構築し、地域貢献活動を学校教育の中に位置づけていく。

本部コーディネーターの役割については、教育委員会の職員が担当することで、学校や地域の実情に精通し、より効果的な連携が可能になるという点が強調された。また、公民館の役割については、地域住民の学習活動や交流の場を提供するだけでなく、子供広場や通学合宿などの事業も実施していることが説明された。

まとめ

みやま市の地域学校協働活動は、学校と地域が連携し、子供たちの成長を支援する先進的な取り組みである。地域学校協働本部を中心に、学校、地域、行政が協力し、子供たちにとってより良い教育環境を構築している。今後は、子供たちの地域貢献活動への参画を推進し、地域と学校が一体となった教育をさらに発展させていくことが期待される。

大野城市における地域ぐるみの支え合いに関する報告

大野城市では、高齢者保健福祉計画第9期介護保険事業計画に基づき、高齢者が安心して住みやすいまちづくりを目標に様々な事業を展開している。

大野城市の高齢者福祉サービスの現状と課題

大野城市では、平成27年から生活支援体制整備事業を展開し、高齢者の課題解決に向けて地域住民同士の支え合いを促進している。しかし、高齢化率は県内でも高く、今後の更なる高齢化に伴い、ICTを活用した見守りや移動支援といった新たなサービスへのニーズが高まっていた。

ICTを活用した高齢者見守り・搜索支援事業

大野城市では、高齢者が安心して住み慣れた街で生活できる環境を整えるため、デジタル技術を活用した見守り・搜索支援事業を令和5年7月に開始した。GPS機器貸与では、認知症高齢者の家族等がいつでも位置情報を検索でき、早期発見・保護に繋げる。GPS機能の小型化や検索の無制限化、通知機能の追加等、既存事業をリニューアルし、利便性を向上させた。費用負担はない。QRコード付きシール配布では、認知症高齢者の持ち物等に貼付したQRコードを、発見者が読み取ることで、インターネット上の掲示板を通して家族と直接やり取りができる。個人情報保護しつつ、迅速な身元確認・引き渡しを可能にする。シールは無料配布である。ICT見守りサービスでは、一人暮らし高齢者等を対象に、人感センサーと緊急通報装置を組み合わせた見守りサービスを提供する。24時間センサーの動きがない場合の安否確認や、緊急時の通報を可能にし、孤独死防止や不安解消に繋げる。介護保険料の段階に応じて月額費用が異なる。

移動・外出支援事業

大野城市では、高齢者の移動手段の確保と外出機会の促進のため、様々な移動・外出支援事業を展開している。コミュニティ・エリアで実施する移動支援では、各コミュニティで、ふれあいタクシーや元気号、なか

よし号等の移動支援サービスを提供している。訪問型サービスにおける移動支援では、介護予防ケアマネジメントに基づき、要支援者を対象に、買い物等の移動支援を行う。生活支援体制整備事業における移動支援では、買い物代行やご支援お届け便、ふれあい市場等の事業を実施している。

地域ぐるみの支え合いを促進する生活支援コーディネーターの役割
大野城市では、地域ぐるみの支え合いを促進するため、生活支援コーディネーターを配置している。生活支援コーディネーターは、地域の課題把握や住民組織との連携、社会資源の調査・開発等を行い、地域福祉活動を支援する。

緊急時における連携体制

緊急時における連携体制については、ICT 見守りサービスでは 24 時間体制のコールセンターが対応し、必要に応じて警備会社が駆け付ける。緊急窓口コール事業では、ヘルパーや看護師が駆け付ける。救急車要請等、状況に応じた対応が可能な体制を構築している。

8. 今後の展望

大野城市では、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、ICT を活用した見守り・搜索支援事業や移動支援事業等の取り組みを積極的に推進している。今後は、これらの事業の効果検証や課題解決を行いながら、地域ぐるみの支え合いを更に強化していくことが期待される。

まとめ

大野城市の高齢者福祉サービスは、ICT を活用した見守り・搜索支援事業や移動支援事業等、多岐にわたる。これらの事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域ぐるみの支え合いを促進する上で重要な役割を果たしている。

厚生文教委員会視察報告書

令和 7 年 1 月 3 1 日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 野田 悦子

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和 7 年 1 月 2 0 日（月）～ 1 月 2 1 日（火）
- 2 出張先 福岡県みやま市、大野城市
- 3 視察内容 福岡県みやま市【1 日目】
 - ・地域学校協働活動について同 大野城市【2 日目】
 - ・大野城市における地域ぐるみの支え合いについて

所 見 福岡県みやま市

・地域学校協働活動について

教育委員会と地域学校協働本部の元教育管理職経験者による。

印刷物は次第を除く 3 部が配られました。

① パワーポイント「学校を軸とした地域づくりをめざして～
学校と地域の連携による地域学校協働活動～」

② 「学校を軸とした地域づくりをめざして～学校と地域の連
携による地域学校協働活動～」(A 3 両面版)、

③ 資料 1～8 の詳細説明

まず説明の前に、取り組む学校運営協議会と市域学校協働活動本部、行政の役割などを具体の例を芝居形式で実演し、実際にあったやりとりと連携の様子がリアルでわかりやすく、説明者の話にも入りやすい雰囲気を作ってくださいました。

資料には学校と地域連携のイメージを電動アシスト自転車に模した図から始まり、**前輪**＝学校運営協議会(共有目標・方向性)、**後輪**＝地域学校協働活動(学校運営協議会委員や所属団体を中心に推進する機動力と持続力)、**ハンドル**＝校長(ビジョンや課題、方針の調整)、**バッテリー**＝行政(支援役)、**ペダル**＝校区コーディネーター(40代から70代で校長からの推薦により決定。CSメンバーでもあり取り組み具合の調整役)であり、それぞれ縦(校区ごと)横(市域)が密に連携しているとのことでした。

これら仕組みを作っても上手く動き出すまではバラツキも起きたのでしょうか、三者会を開催し『地域学校協働活動の推進に向けたチェックリスト』を一緒にチェックすることで、出来たこと出来なかったことの確認や、何が何故出来なかったのかを洗い出し次につなげていくことを繰り返し今に至るようでした。

風通しの良い話し合える場があるのだと感じた視察でした。

福岡県大野城市

- ・大野城市における地域ぐるみの支え合いについて
すこやか福祉部すこやか長寿課による

① パワーポイント「大野城市における地域ぐるみの支え合いについて」

② 取り組み事業の詳細説明

市内配布チラシ、第一次南地区コミュニティまちづくり計画(後期計画 17 頁)、中央地区コミュニティまちづくり計画(基本計画 12 頁)、第 2 次北地区コミュニティまちづくり計画(12 頁)、第 2 次「東コミまちづくり計画」(17 頁)

③ 事前質問回答書

④ 大野城市議会要覧

高齢者施策として、本市含む他市の施策と異なる進んだ取り組みは*あんしんまどか(高齢者 I C T 見守り)事業、*ここだよまどか(高齢者等搜索位置検索)事業、*みつけてまどか(高齢者搜索身元確認)事業の三つとして紹介されました。

いずれもひらがなの名前がついており、大野城市のマスコットキャラクター「まどか」ちゃんからネーミングされた親しみやすく、優しい名前になっていることが高齢者にとっても介護をする側の家族等にとっても気持ちが安らぐ気がしました。

*あんしんまどか(高齢者 I C T 見守り)事業

現在、様々な在宅見守りシステムが開発されていて民間の見守りサービスも提供されていますが、この事業はトイレなど一日に何度となく利用する場所に人感センサーの設置と緊急通報機器の併用により、いち早く異変に気付くもので 24 時間 365 日常駐の警備会社と提携し、家族との連携もできるもの。

*ここだよまどか(高齢者等搜索位置検索)事業

先の議会の一般質問でも聞いた議員がおられましたが、徘徊や迷子の心配のある高齢者に G P S 機能付きの靴とお守り袋の購入支援。

この支援の良いと思う点は、家族が第三者を介さずいつでもスマートフォン等で確認できる点。(現在私も母の靴のインソー

ルにエアタグを付けていますが、近くにアイフォンやアイパッドがないと反応しないので、支援事業があれば助かると感じました。)

＊みつけてまどか(高齢者捜索身元確認)事業

先の二つの支援と違い、こちらは知らない間に家を出てしまって、家族が気づく前に近くにいる方が服やカバンについているQRコードを読み取って伝言板で連絡してもらえる事業。

以前、炎天下の道端に座り込んでいる方をご自宅まで送り届けた時に、個人情報用の壁で持ち物からかかりつけ医に電話し、そこから私の携帯番号を相手の家族に伝えてもらって、出て行っていることもご存じなかったご家族からお電話をもらってやっどご自宅がわかったという経験があり、このようなQRコードをシールで作成し、希望者に登録配布できる取り組みは今すぐに本市でもと思いました。

広報、周知も地区ごとで取り組み・地域で助け合い支える仕組みの真ん中の費用やシステムのところを行政が支えていることに素晴らしいと感じました。

二市の視察は寒いと言われている今季の冬の真ん中であって、お天気に恵まれ暖かな中で終了、するはずでしたが最後の最後、帰りの新幹線博多駅に到着して間もなく、乗るはずの車両の一つ前から人身事故で「運転見合わせ」、いつ動き出すかもわからず改札の前から離れることもできず、四時間遅れの帰宅となりました。

随行職員さんの機転で帰りも自由席ではなく振り替えられ、動き出した新幹線で座って帰ってこれたことが、思い出や後の話題になりそうなおまけ付きの視察となりました。

以上

厚生文教委員会視察報告書

令和 7 年 1 月 31 日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 丸 山 直 土

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和 7 年 1 月 20 日（月）～ 1 月 21 日（火）
- 2 出張先 福岡県みやま市、福岡県大野城市
- 3 視察内容 福岡県みやま市【1日目】
 - ・地域学校協働活動について福岡県大野城市【2日目】
 - ・大野城市における地域ぐるみの支え合いについて
- 3 概 要 別紙添付
- 4 所 見 別紙添付

【 1 日 目 】 「地域学校協働活動について」

（概 要）

みやま市は福岡県の南部にある市で、人口は3万4千人と本市の半分弱ですが、市の面積は105.1km²と本市の7倍以上あり、小中学校の数も、小学校7校、中学校が4校と1校当たりの校区面積が広く、学校と地域との関わりが非常に重要だと思われます。

説明は、元教員であり、教頭先生や校長先生を歴任された校区コーディネーターからで、学校と地域連携のイメージ図がとても分かりやすく、ハンドルが校長、前輪は学校運営協議会となり、ペダルが校区コーディネーター、後輪が地域学校協働活動となり、そしてバッテリーが行政との仕組みで、校長先生がビジョンや課題に向けて方向性を示し、校区コーディネーターがその方向に向けてサポートや取り組みの進み具合を調整し、そこに行政がスムーズに進むように支援をするという説明でした。

その地域学校協働活動の内容については、3つの柱、①【学校支援】⇒地域の方と一緒にその地域を散策しながら、地域の良さを知り、地域への愛情を持つ、②【地域支援】⇒夏休み宿題お助け隊として、地域の方々との触れ合いを図る、③【家庭支援】⇒放課後学習教室等で、子ども未来塾として、学習習慣の定着や地域の方々とのふれあいを図るとあり、その取り組みの中で、学校の教職員の負担軽減や地域の方々のふれあいの中で、地域愛を育み、地域が一体となって児童・生徒たちを育てるという、学校を核とした地域づくりを目指して教育委員会と地域の方々が密接して協働活動を広めております。

校区コーディネーターの15名が中心となり、市内の15の校区公民館を拠点とし、年内の各学年ごとに様々なイベントを実施し、児童・生徒だけではなく、保護者や学習支援スタッフからも高評価を頂いている。

（所 見）

初日のみやま市の視察に参加させて頂き、本市だけではなく、年々児童・生徒たちが地域行事に参加することが少なくなっている中、みやま市の

取り組みは見習うべき点が多くあると思いました。本市の人口の半分で、面積が7倍ということは、拠点である公民館へ集う距離もかなりあると考えられ、その中でもそこに集い、地域の方々とふれあい、たのしく過ごすだけではなく、地域の歴史や、学校の勉強なども、学べることは次の時代を背負う子どもたちや保護者・学校関係者にとっても、未来への希望となることは間違いありません。

私からの質問で、子ども未来塾の対象学年が小学校4年生である理由を聞いたのですが、小学校の勉強は3、4年生が大事で、その中でも4年生が3年生と比べて一段と難しくなるとの回答を頂き、私の子どもも小学校2年生なのですが、どの学年で難しくなるのか想像がつかなかったので、すごく勉強になりました。

本市でも各小学校でみらい応援隊があり、私も校区行事やイベントのお手伝いもさせて頂いておりますが、もっともっと地域の方々にふれ合う機会を増やしていけるよう、教育委員会の方々ともしっかりと相談させて頂きながら、みやま市の取り組みを取り入れていけるように、議員活動をして参ります。

【2日目】 「大野城市における地域ぐるみの支え合いについて」 (概要)

2日目の行政視察は、大野城市で、人口が10万3千人に対し、面積が26.89km²と、本市よりも人口も面積も大きい市となります。大野城市は福岡県中西部にある市です。ここでは、高齢化が進む地域住民に対しての、見守り事業を中心に視察をさせて頂きました。大野城市の高齢化率は、令和6年11月末時点で、高齢者数が23,257人で高齢化率が22.5%となっており、今後も団塊の世代が後期高齢者となる令和7年(2025年)には高齢化率が23.0%、令和22年(2040年)には29.5%と顕著な増加が予想されます。

そこで、大野城市では、ICTを活用した高齢者の見守り事業を開始し

ており、大野城市のイメージキャラクターのまどかちゃんに因んで、「ここだよまどか」、「みつけてまどか」、「あんしんまどか」の3事業だけではなく、心疾患・脳疾患の既往歴や、転倒リスクがある一人暮らし高齢者の万が一の場合に備え緊急通報装置を自宅に設置する「緊急まどかコール」事業も展開しております。

「ここだよまどか」はGPS貸与による認知症高齢者の行方不明時の早期発見・早期保護の内容で、「みつけてまどか」はQRコード付きシールを用いた認知症高齢者の行方不明時の早期保護・家族への連絡、「あんしんまどか」は人感センサー及び緊急通報機器を用いた独居高齢者等の孤独死防止・不安解消の内容となっており、「緊急まどかコール」はあんしんまどかとは違い、既往歴や要支援認定等が必要で、緊急時の駆け付けも警備会社ではなく、ヘルパーや看護師となり、固定電話の回線もあんしんまどかと違って必要となります。

「あんしんまどか」事業は令和5年7月より開始しており、令和5年度の申請者数が473人で、令和6年12月末における申請者数は626人と増加しており、「緊急まどかコール」事業は平成27年8月より開始しており、直近3年間の年間延べ利用者数は、R3年が71人、R4年が73人、R5年は70人、R6年12月末現在で65人と一定数の利用者がおり、高齢者が安心して住める市として、充実した事業となっております。

又、在宅ねたきり高齢者等介護手当も、要介護4以上の要介護認定を受けた高齢者等を自宅で介護している人に手当を支給しており、月額14,000円で、直近3年間の対象者数はR3年が11人、R4年が11人、R5年は12人と、対象となる人が支給を受けられるように事業の周知に努めていくとの事でした。

(所 見)

全国的な高齢化に伴う、先進的な取り組みであり、市として本気で高齢者の安心安全のために取り組んでいる事業として、本市でも大いに参

考にするべきだと感じました。

ここだよまどか（高齢者等探索位置検索）での、介護用シューズのかかどに収納するGPSも、高齢者が外出するときには必ず履くシューズに着目し、その介護シューズ購入費用（9,680円）も半額相当を助成してくれるなど、是非本市としても取り入れたいと考えておりますし、シューズにGPSを取り付けるという意見は、本市でも以前からありますので、今後の高齢者見守り事業に、ICTを活用することも含めて、大野城市の取組みを参考に、より本市の高齢者の方々が、安心して安全に暮らして頂けるよう、しっかりと議員としてできる事を市の職員の方々と知恵を出し合い施策として反映できるようにこれからも活動を粘り強く続けて参ります。

以上

厚生文教委員会視察報告書

令和 7 年 1 月 30 日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 村田雅利

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和 7 年 1 月 20 日（月）～1 月 21 日（火）
- 2 出張先 福岡県みやま市、福岡県大野城市
- 3 視察内容 福岡県みやま市【1 日目】
 - ・地域学校協働活動について福岡県大野城市【2 日目】
 - ・大野城市における地域ぐるみの支え合いについて

4 所 見

(1) 福岡県みやま市 地域学校協働活動について

目的として子ども達の学びや成長のために、学校を核とした地域づくりを目指し、学校と地域が連携・協働しながら活動することにより、地域への親しみや愛着を育てることを目的としている。

みやま市ならではの「仕組み」と「仕掛け」

○地域学校協働本部 みやま市教育委員会 社会教育課 社会教育係内に設置している。

- ・ 地域学校協働推進担当係長を配置
- ・ 本部コーディネーターを配置 （地域学校協働活動推進委員）
- ・ CS ディレクター（指導主事）は本部コーディネーターを兼務

「地域学校協働活動推進計画」の作成は各学校ごとに、主幹教諭が作成している。

地域学校協働活動三者会の開催

地域：校区コーディネーター

学校：地域連携担当者（主幹教諭等）

本部：本部コーディネーター

この三者で月 1 回程度学校で開催し、学習支援ボランティアの派遣依頼等、学校と地域の情報交換を話し合う。

みやま市における「地域学校協働活動」には 3 つの柱がある

【学校支援】について…学習支援等

「地域学習」の目的：地域の方と一緒に散策しながら、地域の良さを知り、地域への愛着を持つ。

地域のよさ（歴史や価値、地域の想い等）の再発見、地域の方とのかかわり。

【地域支援】について…体験活動等

「夏休み宿題お助け隊」の目的：夏休みの宿題に自ら取り組みながら地域の方とのふれあいを図る。

子供達が公民館に集うことによる地域の活性化。

【家庭支援】について…放課後学習教室等

「子ども未来塾」の目的：学習習慣の定着、地域の方とのふれあいを図る。

子どもとのふれあいを通して、生きがいや楽しさ、役立つことを実感。

事業の成果と課題

「学校側」 地域と連携することにより、学習ボランティアの協力が得られ、学習内容の質的向上及び新たな教材開発につながった。

「児童生徒」 地域の方から直接説明を聞くことで地域のよさを再発見したり、地域の方とのかかわりを通し地域の方の温かさに気づいたりできた。

「地域の方」 地域の教育資源の情報を学校に提供することによって、地域学習への参画ができ、地域の活性化を図ることができた。学習支援ボランティア等には、子供達とふれあう楽しさや生きがいを感じられ、地域の方々の自己肯定感が高まった。

とのことです。

泉大津市でも地域課題に向けた取り組みの中で、もう一度学校、児童生徒、地域の方々と話し合い、今以上に学校と地域の連携を密にして自分たちで出来る事を考え計画・実行していけるように調査、取り組みを提案していきたいと思います。

(2)福岡県大野城市 大野城市における地域ぐるみの支え合いについて ICTを活用した高齢者の見守り事業

高齢者が安心して住みなれたまちで生活できる環境を整えるため ICTを活用し、認知症高齢者や独居高齢者の事故等を未然に防ぎ、緊急時の不安や負担を軽減する取組みを令和5年7月より開始

○ ここだよまどか（高齢者等捜索位置検索）

認知症による行方不明等のリスクがある高齢者または障がい者の家族等に GPS 機器を無料で貸与する。

専用のスマホアプリでいつでもでも位置検索ができ、行方不明等になられた時には利用者がすぐに位置情報を確認できる。

また収納用のお守り袋も無料で配布している、持ち運び忘れの心配を軽減するために GPS 機器を収納できる専用の介護シューズの購入もできる。介護シューズの購入費用の半額相当を助成している。対象者は認知症により行方不明等になる可能性がある高齢者等である。

○ みつけてまどか（高齢者捜索身元確認）

認知症等で行方不明になった際、衣類等に貼った QR コードが読み取られると、保護者へ瞬時に発見通知メールが届きます。発見者は QR コードを読み取ると、ニックネームや注意すべきことなど対処方法がわかるので安心です。チャット形式の伝言板だからやりとりは簡単です。お迎えまで迅速に行えます。

まずは事前受付、初期登録が必要。

登録シートに記入後、登録シートをもとに自治体にて情報登録後、ラベルシールが配布される。

○ あんしんまどか（高齢者 I C T 見守り）

対象の方に「人感センサー」と「緊急通報機器（見守りケータイ）」を貸与する。

人感センサーは、24 時間センサーが感知しない場合に安否確認を行います。

緊急通報機器（見守りケータイ）は、簡単な操作で、体調が悪いときにコールセンターに通報したり、普段の健康相談などをしたりできる。

どちらも必要時には安否確認を行い、救急車の要請や警備会社の出

動を行います。

対象となる方は①お一人暮らしの高齢者の方②高齢者のみでお住まいの方③同居家族の仕事等で長時間①、②の状態になられる方月額利用料がかかります。※介護保険料の段階によって利用料が変わります。

1～3段階 0円 4～5段階 250円 6段階以上 500円

この3つのICTを活用した高齢者の見守り事業はすごく参考になり、特に独居高齢者、孤独死問題についてはさらに勉強していき、本市でも、何か取り組めるように提案していきたいと思います。

厚生文教委員会視察報告書

令和 7 年 1 月 28 日

泉大津市議会議長 様

委員氏名 森下 巖

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

- 1 日 時 令和 7 年 1 月 20 日（月）～ 1 月 21 日（火）
- 2 出張先 福岡県みやま市、大野城市
- 3 視察内容 福岡県三原市【1日目】
 - ・学校を核とした地域づくりをめざして
 - ～学校と地域の連携による地域学校協働活動～について
福岡県大野城市【2日目】
 - ・高齢者における地域ぐるみの支え合いについて

4 所 見

福岡県みやま市

学校を核とした地域づくりという観点だったが、全国的にどこでも学校運営協議会が設置されて、学校と地域の連携による地域学校協働活動が進められてきている。しかし、学校と地域にはそれぞれの状況や条件などが様々にあり、実際には日常的、継続、系統的な連携をしていくのは難しい。

みやま市では地域との連携を学校まかせにせず、教育委員会に本部コーディネーター(元校長や教頭)を置き、各学校のコーディネーターとが密に連携していた。様々な学校や地域の支援、イベントなどだけでなく、学校支援では地域の方にその方の得手を活かした支援(ミシンや習字など)、地域支援では様々な遊びや生活、芸術文化の体験を出来るようにし、家庭支援として放課後の学習支援から公民館での子ども食堂まで実施していた。

それを可能としているのは、地域の人たちを把握しているコーディネーターや公民館活動でのつながりなど実現する体制があり、どの取り組みも子ども達のことを中心に、地域の人との関わりで学習内容の向上や地域の良さを再発見させ、関わるほどに子どもや地域の人たちの双方が楽しくやりがいを得ることが出来ていることが持続的、系統的に実施出来ていることにつながっていた。

特に感心したのが教員不足はみやま市にもあると質問に対して答えておられたが、再任用で教鞭を引き続き取られることが多いと思うが、元校長や教頭が本部コーディネーターなど学校と地域をつなぐ役割を担っておられた。学校の運営のことを熟知したそうした方がパイプ役としていることが非常に効果をあげている要因だと感じた。

本市においても現場(校長)任せにせず、学校とともに地域との連携にイニシアチブを発揮し、進めることを中心にする役割の担当者の配置がどの学校においても活発な学校と地域の連携、協働の活動につながるだろう。

大野城市

従来の高齢者への地域の支え合いは、定期的な訪問など見守り活動となるが、実際にはその時だけではない様々な課題や問題があり、それを具体的な解決や不安解消を可能とするために、ICT の活用を大野城市では重視されていた。

認知症高齢者の見守りでの ICT の活用では、GPS を靴やお守りに仕込んでいつでも位置確認が出来たり、衣類に貼り付ける QR コードで、保護されたり、発見者が家族とメールのやりとりが直接出来ることで、役所が休みの時も 365 日いつでも対応可能として、早期発見につながり、行政が積極的に機器の改良なども事業者と連携して取り組まれていた。

自宅のセンサーで一定期間動きがないと連絡が入る仕組みや緊急にコールを入れることが出来る事業など、非常に現実的で特に他所で暮らす親族にとっては安心につながり、役に立つ取り組みと言える。

他にも移動や外出支援では、全世代型の誰でも乗れるコミュニティバス以外に、公共交通が不便な区ごとに高齢者の移動支援事業での無料のコミュニティバスや、ドアツードアの外出支援を介護保険の総合事業で実施されており、面積的には 26.89 km²と本市より少し大きいだけだが、高齢者の交通権を保障し、外出支援をきちんと位置付けていることが介護予防にもなるという気付きにもなり大変勉強になった。

生活支援では、日常的な困りごと(例えば電球の交換など)のサポートを「おタスケさん」というボランティアにより解決する地域支え合いを事業としており、助けてもらった人が 10 分程度で 100 円のありがたう券を渡して、おタスケさんはそれをゴミ袋購入に使えるなど非常に現実的な仕組みとなっている。年間 1753 件もの活用があり非常に活用されているのが分かった。どの事業もかゆい所に手が届くような現実的でこれまで上手くいかなかったことや、高齢者の実態に見合った取り組みになるよう進められてきたことが分かり、本市においてもとても参考になる取り組みだった。